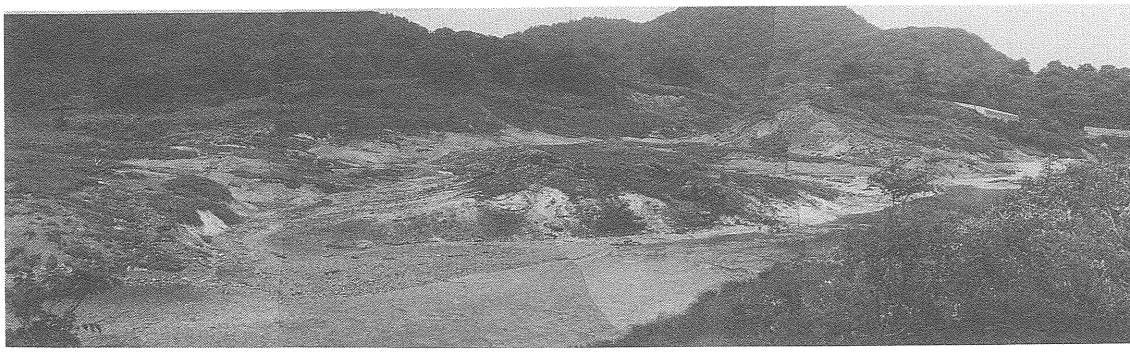
地質ニュース453号，24頁，1992年5月
Chishitsu News no. 453, p. 24, May, 1992

私の推薦する天然記念物

“恐山型”金鉱床



恐山型金鉱床という名称は未だ一般に認知されてはいない．私は，恐山で発見された金の異常濃集体が“恐山型”の語を冠するにふさわしい貴重な地質学的モニュメントであると考えている．金属の濃集体は経済活動の対象となるため，天然記念物としては残りにくい．ところが，恐山の金鉱床は，ごく最近まで存在すら知られていなかったことも幸いして，ほとんど無傷のままに保存されている．この鉱床は，発見されたとき圧倒的な高品位で大いにマスコミを賑わした．もちろん，舞台が有名な霊場であったことと，神聖な死後の世界に“金”というアンバランスな取り合わせであったことも，騒ぎの背景として無視できない．ともかく，“もの”が万人の関心を惹きつける“金”であるだけに，世界唯一の貴重なモニュメントも，あっという間に踏み荒され霧散してしまう恐れがある．恐山型金鉱床が天然記念物にふさわしいと考えるゆえんである．

次に恐山型金鉱床のユニークな特徴を列記してみる．1)水深の浅い火口湖の底にできた熱水爆裂孔を埋めた温泉沈澱物である．湖面水位が下がり地表に露出したため，一度は堆積物で埋め尽くされた構造が再び削り出されつつある(写真参照)．2)沈澱はベースメタルに始まり，恐らく短時間の内に金・砒素・水銀等へと系統的に変化した．金・水銀はテルル化物として産出し，1000 ppm を越える高濃度も希でない．3)熱水活動はすでにピークを過ぎているが，現在もマグマの香り高い深部熱水が湧出し地表の湯溜りに，砒素硫化物とともに金を沈澱しつつある．

金鉱床の生成にマグマ発散物の果たす役割を実証できる場所として，恐山の存在意義はきわめて大きい．適切に保護され世界に開かれた研究対象として永く維持されることが望まれる．

(地質調査所鉱物資源部　青木正博)